



糸半プロジェクトとは

平成二十七年、燕市の「羽ばたけつばくろ応援事業」の採択を受け、生徒会本部が中心となり、「糸半プロジェクト」を立ち上げました。

「糸半プロジェクト」は、お世話になっている地域の方々への恩返しと、中学生にできることを考え行動し、小池中の良さを自分たちの姿で表現するという地域への発信とボランティア精神の向上を目的としたものです。



※糸半プロジェクトの名前には、小池中生が縦糸。地域の方々が横糸となつて、お互いの力を出し合つて、絆を深めたいという願いが込められています。

What is the meaning of ITOHAN PROJECT?

令和5年度 企画活動テーマ

～手を取り合う小池のつながり～

これまで行ってきた地域貢献活動に加え、更に地域の方々との関わりを深めたいと活動を進めました。

地域ボランティア ～関わりを広げて～



地域との共通テーマ 「防災」「福祉」



地域貢献活動



令和5年度 企画活動テーマ

～手を取り合う小池のつながり～

地域ボランティア～関わりを広げて～



夏休みに生徒会の呼びかけにより、児童館でのボランティア活動

今年度、より一層地域の方との関わりを深めようと活動を行いました。福祉活動では、今まで以上にたくさんの方の関係者の皆様よりご支援いただきました。また、地域の小学生との関わりも広げようと児童館でのボランティア活動を行いました。

感想

初めて行った児童館ボランティアはとても楽しく、また難しさもありましたが良い経験となりました。このことから学ぶことがたくさんあり、自分の成長につながると思います。来年度からもこのような地域との関わりを大切に、新たなことにたくさん挑戦してよりよい小池中、小池地区を作っていきたいです。

久しぶりに小学生に会うので不安でいっぱいでした。ですが、いざ会ってみると、小学生の方から喋りかけてくれたので、すごく嬉しかったです。また行きたいです。

ボランティアに参加して、小学生と関わることの大切さに気付きました。自分たちにとっても貴重であり、小学生も楽しんでくれて、とてもいい経験となりました。来年度は中学生が児童館で何か企画したらより良くなると思います。

はじめは緊張しましたが、いざ活動と一緒にすると小学生も楽しんでくれてほっとしました。勉強を教えたり、一緒に遊んだりして普段学校ではできない体験で、貴重な時間となりました。

地域との共通テーマ 「防災」

災害場面を想定した道徳

全校道徳「防災クロスロード」

今年も防災クロスロードを全校で行いました。災害時の様々な場面とそのときの立場を想定した二者択一の選択から、自分はどう行動するかを考え、全校で話し合いました。各班一台のクロームブックを使用して、それぞれの班の意見をスクリーンに集約しながら、その判断と理由について共有し、考えを深めました。

感想

いろいろな場面で、人の意見はそれぞれ違うことが分かりました。災害などの急に決断しなければならぬ場面では、意見がぶつかり合ってしまう。客観的に物事を捉え、様々な視点で考えることが大切だと思います。

YesかNoかの二者択一ではなく、それぞれの選択の中にも異なる理由があることが分かりました。普段から固定観念に捉われず、想像力を働かせて事象を見ていきたい。他の人の意見を尊重しながら自分の意見を主張することがとても大変だと思いました。人それぞれ考え方や捉え方が違う中で考えを一つにまとめることは大変なことであり、難しいことだと感じました。

小池中学校では3年間を通じて、災害時に必要とされる様々な資質や能力を身に付けさせるために防災学習に取り組んでいます。

1年生…災害弱者の避難支援

2年生…救急法講習

3年生…さすけなぶる（避難所運営ゲームHUG）

三年生 防災道徳「さすけなぶる」

令和二年から毎年三年生は災害場面を想定した道徳の授業で考えを深めています。東日本大震災の時に実際に避難所で起こった事例にどう対処するかを話合いました。個の命と人権を守ることをルールとし、みんなで意見を出し合い、議論し納得解や最適解、暫定解を導き出す活動を行いました。



感想

●意見がすれ違って、話がまとまらなくても否定することもなく相手の考えも含めた意見を出すことができ、一つのことに對して視野が広がりました。

●もし、自分が被災したときには、自分のことばかりでなく、周りのことも考えて行動をしていきたいと感じました。中学生の私たちでも、避難所の人を手伝うなどたくさんできることがあることに気付きました。

平成28年度スタート 8年目の取組

地域防災訓練 (10月7日(土))



今年度は地区によって、いつとき避難所から指定避難所までの訓練も増え、活動が感染禍前に戻りつつありました。中学生も地域の方とともに安否確認や避難所での集計等、町内ごとの役割に従い、地域の一員として活躍しました。十月七日は全校で防災について取り組みました。

感想

●私たちの安否確認によって、人を助けられると思いました。中学生で役割を分担して行うことで、効率よく確認できるのではないかと思います。

●小池地区は特に高齢者が多いので、中学生が中心となつて安否確認をすることが大切だと思いました。安否確認では、その人の体調や気分なども確認すべきだと思いました。

●地域の方と一緒に区画づくりのテープ貼りをしたり、更衣室を作ったりしました。避難してきた方のスペースを作ることが結構難しかったです。



地域との共通テーマ「福祉」

包括支援センターおまがり、燕市社会福祉協議会、燕市長寿福祉課様をはじめ、支え合い活動推進委員の多くの皆様のご支援をいただき、福祉学習に取り組んでいます。

一年生 認知症サポーター養成講座

燕市認知症地域支援推進員、燕市社会福祉協議会の皆様、講師の小林様よりお越しいただき、認知症サポーター養成講座を実施しました。正しい知識を学ぶとともに、認知症の方への理解と気持ちに寄り添う接し方について活発に話し合いました。



二年生 地域の方とのワークショップ

昨年度の認知症サポーター養成講座で学んだことをベースに、今年度は認知症の方やその家族のお話を伺い、地域の一員として自分たちに何ができるかを考えました。地域の支え合い活動推進委員の皆さんとグループワークを行い、地域での実際の活動を紹介していただきながら話し合いました。



三年生 三年間の学びを地域へ発信

認知症の方や家族の方の支援について、関係機関から施策について学び、支え合い活動推進委員の方の御協力で認知症の方への声掛けの疑似体験活動を行いました。

また、学習のまとめを行う際に生じた疑問について、関係機関の皆様から回答をいただくことができました。



学習発表会では、これまでの学習で御指導いただいた皆様から来校いただき、学習の成果を発表しました。また、まとめとして作成した壁新聞を「介護・福祉学びの収穫祭」で市役所エントランスホールに展示し、市民の皆様にも御覧いただきました。

感想

● 認知症について学んだ情報をもっといろいろな人に発信したいです。世の中には認知症の方への偏見を持っている人も多いので、正しい情報を発信して、偏見をなくしていきたいです。

● 今までの学びをこれで終わらせることなく、実施や行動につなげていきたいです。まず、親や祖父母にも伝えていきたいです。

● 福祉で大切なことは人に寄り添っていくことだと感じました。困っている人がいたら、できるだけ話しかけてみるのが、自分が身に付けることだと感じました。

地域貢献活動



地域クリーン作戦

クリーンデー燕に、多くの生徒が参加しました。



藤の実もぎ作業

県指定天然記念物である八王寺の白藤の保全活動を地域の方と一緒に行いました。



交通公園清掃活動

昨年度から、生徒会と福祉委員会が中心となって交通公園の落ち葉掃きの活動を行いました。本年度は落ち葉掃きに加え、ベンチの清掃も行いました。



押し花しおり&コースタープレゼント

整美委員会では、植え替えの際に出た花を押し花にしました。それを用いてしおりやコースターを作成し、お世話になった方にプレゼントしました。



クリスマスリースプレゼント

総合文化部で毎年制作しています。今年もお世話になった皆さんに届けました。

地域の祭 看板作成

今年度、総合文化部は、地域の依頼を受けて祭の看板制作を行いました。

燕市立小池中学校

〒959-1265 新潟県燕市道金1095-1

ご意見、ご感想等は
jh-koike@g.tsubame-city.ed.jp

今年度は感染症も五類となったことから、改めて人とのつながりについて考えました。生徒は多くの地域の方と関わり、自分たちができることを見つけることができました。私たちの活動にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

編集後記